



鶴からの手紙

真鶴中学校だより 第二一三号

2020.5.11
責任者
市川 麻美

令和二年度の スタートによせて

令和元年度末の一ヶ月の休校期間を越えて、四月六日、四十四名の新入生を着任した七名の教職員とともに迎え、令和二年度の真鶴中学校がスタートしました。校庭の桜がこの日まで耐えに耐えて待っていてくれたようです。晴れやかに桜の下で記念の写真も撮ることができました。

令和二年四月一日付で真鶴町立真鶴中学校校長として赴任いたしました、市川麻美と申します。小田原市立城南中学校よりまいりました。私は真鶴町で生まれ育ちました。本校の卒業生です。母校に赴任したことは、大変光栄で、ありがたく幸せなことと思っております。心身ともに大きく育ててもらったこの町に恩返しができるチャンスだと思っております。子どもたちが安心・安全にのびのび楽しく学習できる学校を職員とともに築いていきます。保護者・地域の皆様のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

始業式・入学式では、改めて本校の校訓について話しました。世界の中様々な人の多様性を「素直に」受け入れ、まさに今現在この新型コロナウイルス問題のような大きな困難にあっても「逞(たくま)しく」立ち向かい、前に進んでいかれる人になってほしい...と。

着任式で話してもらおう予定だった、生徒代表の言葉を書面にしていたきました。「一人ひとりがあいさつのできる学校」「あいさつは先輩から後輩へと受け継がれた真鶴中学校の伝統」とありました。私もあいさつはとても大事なものだと思っています。人と上手につきあう一番の鍵です。「笑顔であいさつ」を心がけて、生徒と共に毎日を過ごしていきたいと思



まだまだ、通常通りの学校生活を取り戻すには時間がかかるかもしれませんが、ここは地域一丸となって乗り越えていきたいと思えます。改めまして、どうぞよろしくお願

入学式から

三年

新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます。私たちはみなさんの入学を心待ちにしていました。今、みなさんは新しい環境への期待や不安でいっぱいだと思います。わたしも入学当初は同じ気持ちでした。しかし、そんな不安な気持ちも、親身になって教えてくださる先生方や一緒に入学してきた友達存在が、あっという間に入学してきた友達の存在が、あっという間に入学してきただけでなく、すぐになくなりました。いまでは楽しい中学校生活を送ることができています。今日からみなさんは真鶴中学校の一員です。不安なことや困ったことなど、なんでも気軽に声をかけてください。真鶴中学校は明るいあいさつで、先輩、後輩隔てなく明るくコミュニケーションが取れる学校です。私たちも明るくあいさつをします。みなさんも真鶴中学校の生徒として胸を張ってこれから始まる中学校生活を楽しんでください。そしてみなさんの一人ひとりがこれからはじまる中学校生活をいい思い出として、実りある中学校生活としていてください。私たちも応援します。

一年

暖かな春の訪れとともに、私たちは今日、真鶴中学校に入学しました。中学校生活が始まる新たな学習や二年ぶりのクラス替え、少し不安もありますが、楽しみにしている気持ちのほうが大きいです。何事にも全力で取り組み、仲間と助け合って、これからの中学校生活を頑張っていきます。

メール配信システム に関するお願い

本校では一斉連絡・情報共有のためのメール配信システムを活用しています。四月十四日付文書にてお知らせしましたように、必要な情報が、いち早く各ご家庭に伝わるよう、メール配信システム(マチコミメール)に生徒氏名を登録していただくことをお願いしています。

生徒氏名を登録することで、情報受信者を把握し、情報を受信したことが確認できないご家庭に優先的に電話連絡を実施するものとします(連絡内容によって、併せて電話連絡網を活用または各ご家庭に電話連絡を実施します)。趣旨をご理解のうえ、ご協力くださるようお願いいたします。